

## 4 周辺環境への影響

### 騒音・振動

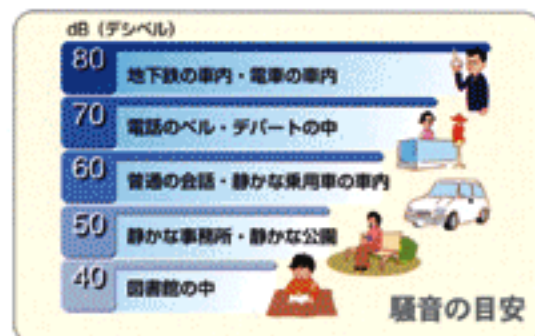
地上との連絡路が必要なジャンクションやインターチェンジ付近では、騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

#### 騒音の状況

関越道とのジャンクション、目白通りインターチェンジ及び青梅街道インターチェンジ周辺の騒音は、10地点で平日と休日それぞれ昼間と夜間で測定しています。測定結果の一例を下に示しています。

測定場所	騒音レベル LAeq(dB)	
東大泉2丁目 (目白通り)	昼間	70
	夜間	67
大泉町5丁目 (関越道)	昼間	57
	夜間	51
大泉4丁目 (外環取供用区間)	昼間	63
	夜間	58
上井草4丁目 (青梅街道)	昼間	73
	夜間	70

※ 平日の観測値  
dB(デシベル):音や振動の大きさを表す単位



出典:東京都環境局資料より作成

### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがない場合

関越道とのジャンクション部の連絡路付近では、連絡路等を走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがある場合

関越道とのジャンクション部の他、目白通り及び青梅街道インターチェンジの出入り口付近では、連絡路等を走行する自動車からの騒音・振動による影響が生じる可能性があります。

沿道環境に配慮するため、必要に応じて環境施設帯の設置、遮音壁の設置、騒音低減効果のある舗装等の保全対策を実施します。

#### 騒音低減効果のある舗装



自動車の走行による騒音を吸収する効果があります。

#### 遮音壁、環境施設帯の事例



遮音壁の設置により、騒音を低減します。

#### 環境施設帯の事例



沿道への騒音を低減するとともに、緑豊かな道路空間を創出します。

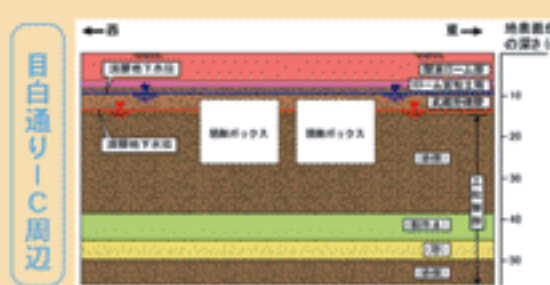
### 地質・地下水

#### 地質と地下水の状況

目白通りIC周辺の地下水は、地下約10m付近の武蔵野礫層の中と地下約15m以深の上総層群中の砂礫層の中に存在しており、それぞれ浅層地下水、深層地下水と表現しています。浅層地下水の流向は、概ね南西から北東方向に向いています。

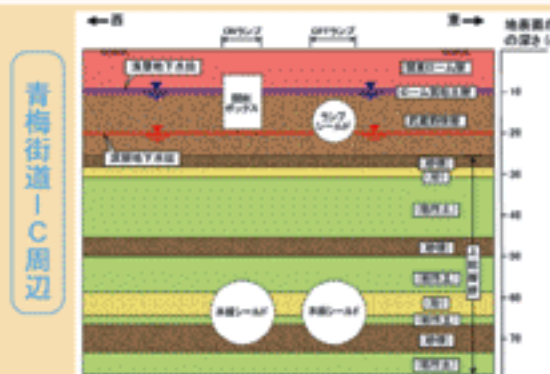
青梅街道IC周辺の地下水は、地下約10~20m付近の武蔵野礫層の中と地下約25m以深の上総層群中の砂礫層の中に存在しており、それぞれ浅層地下水、深層地下水と表現しています。浅層地下水の流向は、西から東方向に向いています。

#### 地質断面図



※ 本図開削ボックスの位置等は目安として、一般的なものイメージで示しています。  
※ 浅層地下水は、開削ボックス付近の上総層群(砂礫層)で観測した地下水の圧力水頭の高さ(井戸を設置した時の地下水の高さ)を示しています。

#### 浅層地下水の移動方向 (冬季観測データより)



※ 本図シールドやインターチェンジランプの位置等は目安として、一般的なものイメージで示しています。  
※ 浅層地下水は、本図シールド付近の上総層群(砂礫層)で観測した地下水の圧力水頭の高さ(井戸を設置した時の地下水の高さ)を示しています。



### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがない場合

【目白通りIC周辺】関越道とのジャンクション部では、工事(開削等)によって、周辺の地下水の流れ、白子川の水量、周辺の湧水量等に影響を与える可能性があります。

【青梅街道IC周辺】外環本線を整備する場合、青梅街道付近は、地中を掘り進む工法(シールド工法)により整備する予定であり、地上から掘り下げて行われる開削工法による工事箇所がないため、周辺の地質・地下水等に影響を与える可能性は少ないと見込まれます。

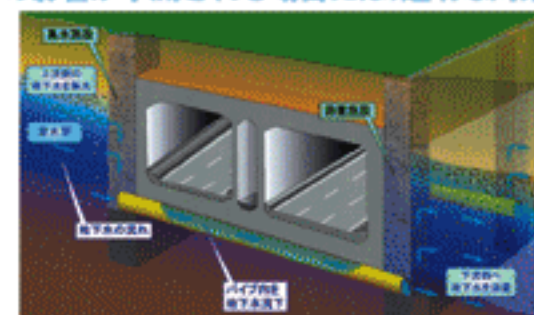
### 目白通りと青梅街道にインターチェンジがある場合

【目白通りIC周辺】インターチェンジがない場合と工事(開削等)区間が変わらないため、周辺の地下水等と与える影響は、インターチェンジがない場合と同程度の影響と見込まれます。

【青梅街道IC周辺】善福寺川の付近から千川通りの付近の区間では、工事(開削等)によって、周辺の地下水の流れ、善福寺池の水位等に影響を与える可能性があります。

地下水への影響が予測される場合には、適切な対策工法を検討し実施します。

#### 地下水対策工法の事例



地下構造物の建設等により、地下水の流れを阻害する場合に、上流側の地下水を集めて、透水施設を通じ、下流側へ流れるようにして、地下水の流れを確保します。